

平安かな書を演出する



『料紙の美』

かな書道は美しい料紙と共に発展してきました。王朝のかずかずの古筆の料紙は、千年の歳月を超えて私達を魅了し、夢の世界へと誘ってくれます。

古筆研究・料紙制作の第一人者である田中親美（たなかしんび一八七五～一九七五年）から料紙づくりの工法を学び、そこから独自に工夫して「笹舟料紙」を開発・実用化したのが桑田笹舟（くわだささふね一九〇〇～一九八九年）です。

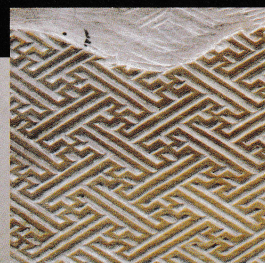
今回はこの工法で作られた美しい手作り料紙とその制作工程、工具を紹介いたします。桑田笹舟の軸、額もご覧いただけます。

かな書家は、料紙を作るたびに色合いや版本文様の美しさに情緒を覚え、これに相應しい歌選びをします。桑田笹舟は「料紙という物はかな書という主人の住む家である」と言いました。

自分の手でこのような料紙作りに挑戦できたら、どんなに楽しいことでしょう。



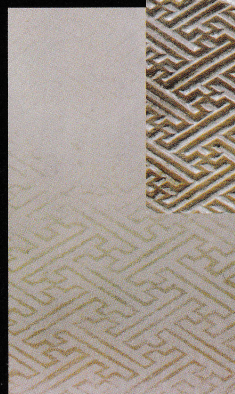
版木



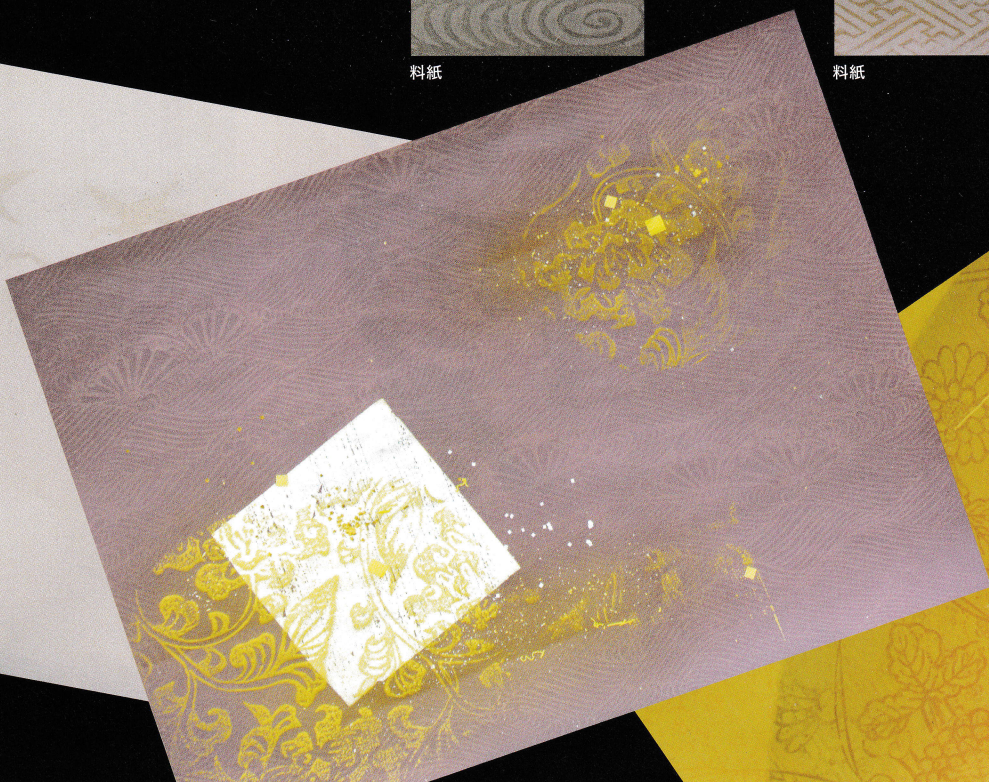
版木



料紙



料紙



※8月23日午前11時から、毎日書道会の三宅相舟監事による解説会があります。ぜひご聴講ください。
■協力／二葉印刷（紙研） 一休園